

115	専門基礎科目群I	医療倫理学	2	必修					医療は、その対象者である患者のために医療従事者が実施する行為である。その行為が実施される時には、常に倫理が問われる。倫理観の確立した医療従事者となるために、医療倫理の歴史、原則、課題と死生観の問題を取り上げるとともに、生命倫理、臨床倫理など倫理原則について学ぶ。	○			◎							
116	専門基礎科目群I	医療コミュニケーション論	2	必修					グローバル化が進む現代社会においては、文化的背景を異にする人々と接する機会が急激に増えている。また、高度情報化という状況の中で、相手と対面しない形でコミュニケーションをとる必要もある。この授業では、現代社会で必要とされるコミュニケーションの思考の枠組み、態度、スキルを実践的に学んでいく。	○			○				◎			
117	専門基礎科目群II	人体の構造	2	必修	○				ヒトの身体の発生や構造（つくり）を学習する。特に運動器系（骨・関節・筋）、内臓系（循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌器系）、感覚器系およびそれらを調整・支配する神経系（中枢神経系・末梢神経系）の構造を理解し、疾患や障害の理解につなげる。	◎										
118	専門基礎科目群II	人体の構造演習	2	必修	○	○		○	人体の構造で学習した解剖学の基礎知識を基盤とし、解剖標本を用いて、運動器系（頭蓋・体幹・四肢の骨・関節・筋）、神経系（中枢神経系・末梢神経系）、感覚器系（皮膚・視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器）の構造を理解する。	◎	○									
119	専門基礎科目群II	人体の機能	2	必修	○				人体の機能・役割について学習する。特に運動器系（筋・骨格・関節系・呼吸循環系との関係性）やそれらを調整・支配する神経系（中枢神経系・末梢神経系）内臓系（消化器・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・循環器系）、それらを調整する内分泌系と自律神経系の機能を理解し、疾患や障害の理解につなげる。	◎										
120	専門基礎科目群II	人体の機能演習	2	必修	○	○		○	人体の機能について演習を通して学習する。人体の機能で学んだ内容を踏まえて、さらに筋および心臓の機能について学ぶ。これらの人体の機能が、神経活動や運動・呼吸・循環においてどのように働いているかをより深く理解し、疾病や障害の理解につなげる。	◎	○									
121	専門基礎科目群II	運動学I	2	必修	○				身体運動の基礎を理解するため、物体の運動を表す力学、また生体で運動を行う筋骨格系の構造と機能、その関連性を学習する。各関節の形状・名称・筋肉・動きと力学について学習し、身体運動の基礎を理解する。具体的には、人間の関節運動や歩行などの複雑な運動のメカニズムを理解する。	◎										
122	専門基礎科目群II	運動学II	2	必修	○				運動学Iで学習した身体運動の基礎知識を臨床応用させるべく学習を進める。特に運動・動作の分析方法と解釈、それにまつわる姿勢、歩行、運動発達、運動学習について学習し、身体運動の理解を深める。本科目終了時には、運動学を通して論理的にヒトの動作を説明・観察・分析できることを目標とする。また、すべての動作に多大な影響を及ぼす運動力学的考察力を養い、理学療法を実施する上での基礎知識を形成していく。	◎										
123	専門基礎科目群II	運動学演習	1	必修	○	○		○	運動学Iと運動学IIで修得した知識について、ヒトの身体運動を計測機器等による分析を通して運動分析方法等を学習する。姿勢観察や基本動作における関節運動を観察や、筋電図・重心動揺計・ストップウォッチ等を用いた運動の評価・解析、心電図モニターや呼気ガス分析などについて理解する。	◎	○									
124	専門基礎科目群II	人間発達学	2	必修					生命が誕生するしくみと生まれるまでの各組織の発生、さらに乳幼児から小児期・少年期までの運動と認知機能および情意面の発達の違いやその特徴について学習する。これらの学習を通じて、人間が発達するために多くの支援や環境が必要であることの理解を深める。また、成人期・老年期そして死に至るまでの量的・質的变化（老化）の過程について、発達という観点から生理機能、運動機能および認知機能について考究し理解を深める。それぞれの時期に特徴的に出現する病態や障害について、人間のライフサイクルという視点に立って理解する。	◎										
125	専門基礎科目群II	臨床心理学	1	必修					病院の患者や施設などの入居者の心理を系統的に学び、各々のケースの心理状態を客観的に把握することで、患者や入居者の心理を理解するための知識を習得する。	◎										
126	専門基礎科目群II	機能解剖学	1	選択					構造の学問である解剖学を基盤として、人体の運動がどのようなメカニズムで成り立っているかを学ぶ。機能解剖学では、解剖学と運動学を融合し、人体の運動を理解する。また、人体の内部で発生する運動を体表面から触診し観察する技術を身につける	◎										
127	専門基礎科目群III	整形外科系医療学	2	必修					骨関節障害や痛みを引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と薬理を含む治療を学ぶ。骨折、脱臼、および神経、関節、脊椎、上肢、下肢の外傷、先天異常、骨軟部腫瘍、感染症、骨系統疾患、筋疾患、各関節脊椎の慢性・変性疾患について解説し、そこから生じる障害について学習する。また、整形外科的診断に必要な画像所見（レントゲン、CT、MRI、超音波エコーなど）の基礎を学ぶ。	◎			○							
128	専門基礎科目群III	内科系医療学	2	必修					内部障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と薬理を含む治療を学ぶ。呼吸器系疾患、循環器系疾患、内分泌・代謝系疾患、消化器系疾患、腎・泌尿器系疾患、生殖器系疾患、血液疾患、自己免疫疾患、がん関連障害、皮膚障害に大別してそれぞれに解説し、そこから生じる障害について学習する。また、内科的診断に必要な画像所見（レントゲン、CT、MRI、超音波エコーなど）の基礎を学ぶ。	◎			○							
129	専門基礎科目群III	精神医学系医療学	1	必修					理学療法士学生が精神医学について学ぶことは、必要不可欠である。授業の中では、精神的疾患についての学習をおこなう。精神科領域疾患の種類は多く、内因性の精神疾患からストレスに起因するものまで、その症状は多岐にわたる。精神を病む、こころが病気になるとはどういうことを言うのか、臨床での具体的事例を踏まえ、内容を理解する。	◎			○							
130	専門基礎科目群III	公衆衛生学	1	必修	○				公衆衛生とは、人類における疾病の予防、寿命の延長、身体・精神・社会的健康の向上を図り、人類の健康の保持増進を図るための活動である。健康とはなにかを知り、公衆衛生学について、系統的に学習する。	◎			○							
131	専門基礎科目群III	病理学	2	必修					対象者理解のために必要な病因・病態や生体反応について学ぶ。炎症や感染症、腫瘍や免疫など理学療法を行う上で必要となる病理学の概要について系統的に学習する。	◎			○							
132	専門基礎科目群III	神経内科系医療学	2	必修					中枢神経障害や末梢神経・筋疾患を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と薬理を含む治療を学ぶ。脳血管疾患や感染・炎症疾患、神経変性疾患、神経筋接合部疾患などの疫学、ヨボ、秒位、評価、検査などについて学習する。また、神経内科的診断に必要な画像所見（レントゲン、CT、MRI、超音波エコーなど）の基礎を学ぶ。	◎			○							
133	専門基礎科目群III	薬学概論	1	必修					薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解したうえで、内科的治療の柱である「薬物療法」についての総論的な知識と、臨床で多用される代表薬物を薬理学的に理解する。あわせて、薬物の副作用やその有害事象についても学ぶ。薬物が起こす生体反応を理解し、基礎を築き、理学療法実施時の使用薬剤に対する留意点を知ることやリスク管理の必要性を理解する。	◎			○							
134	専門基礎科目群III	医療概論	2	必修					リハビリテーション職種ある作業療法士・言語聴覚士の職域を知るとともに、摂食嚥下について理解する。また、医療人として必須の知識である栄養や、救急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学ぶ。さらに具体的な心肺蘇生・応急処置について学ぶ。	◎			◎							
135	専門基礎科目群III	老年学	1	必修	○				加齢に伴う身体・精神・心理機能の変化を学ぶとともに、代表的な老年症候群や、廃用、褥瘡など高齢期に生じやすい疾病・障害について、病因や分類、病態、評価、診断、治療を学習する。	◎			○							
136	専門基礎科目群III	障害予防概論	1	必修	○				疾病や外傷を防ぐという予防の重要性が示されている。理学療法士においても予防の面での関わりが求められるようになってきており、予防理学療法に通じる疾病予防や健康管理の在り方について学ぶ。また、自然災害時や復興支援期における活動についても理解する。	◎			○							
137	専門基礎科目群IV	リハビリテーション科学	2	必修	○				リハビリテーションの理念・概念を理解するとともに、リハビリテーションに係る障害の評価と治療を学ぶ。種々のリハビリテーション対象疾患の医学的情報について理解するとともに、必要な情報の整理、心身機能や身体構造、活動、社会参加、背景因子などに整理する術を理解する。さらにリスク管理やリハビリテーションチームとしてのアプローチなど各種専門家の役割や過程についても言及する。	◎			○							
138	専門基礎科目群IV	保健医療福祉概論	1	必修	○				国家的な視野で政策を理解し、保健医療福祉の目指す方向性を考察する。また、人々の多様な個別的ニーズやQOLを尊重した質の高いケアやサービスを提供するために必要となっている保健医療福祉の相互に係る総合的・包括的・継続的な活動支援方法、専門職の協働的なかわり方の意義を学ぶ。さらに、地域ケア構想の推進のために、都道府県、自治体、小地域（日常生活圏域）における重層的で、包括的な支援システムの構築の意義や方法を地域実践事例を提示し、分析検討する。	◎			◎							
139	専門基礎科目群IV	多職種間連携教育	1	必修	○				多職種間で協働して医療にあたる能力を育むために、コメディカル連携の基礎となる多職種の知見や演習課題を行い、学生の理解を確実にものとする。具体的には、福祉・看護・薬学及び人体や疾病に関する知見や課題を理学療法の立場から統合し、それらの知見・課題を理学療法にどのように反映させていくかを学んでいく。	○			○				◎			
140	専門基礎科目群IV	多職種間連携教育実習	1	選択		○		○	講義・演習で学んだ多職種間連携の知識を基盤として、現場における多職種間連携の実践を学ぶ。実技・演習を通して、実際の現場で行われる多職種の業務・専門性を知るとともに、理学療法士として必要な知識・技術を理解する。またチームを形成するためのコミュニケーション技能や伝達手段を知る。	○			○				◎			

168	専門科目群II	発達系理学療法学	2	必修				小児科領域の疾患の症状に対し、理学療法の治療体系がどのように対応するかを総合的に考察し、さらに疾患別におこる障害についてそれぞれ論じる。脳性麻痺、筋ジストロフィー、神経筋疾患、先天性（遺伝性）疾患などが理学療法の対象であり、これらの症状・障害を理解し発達学的視点から適切な治療を立案しなければならない。本講義ではこれらの具体的な内容について論じる。	◎	○										
169	専門科目群II	スポーツ系理学療法学	1	必修	○			スポーツの競技毎に発生しやすい傷害の特徴と理学療法的評価方法および治療法を学習する。スポーツ業界で理学療法のNeedsが高い、サッカーや野球、バスケットボールをはじめ、その他各種競技の特徴的傷害とその理学療法を学ぶ。スポーツ理学療法の内容として、保存療法と親血的療法など手術の有無による理学療法の特徴とその内容について学ぶ。理学療法学の知識と手段を用いた治療や予防、競技パフォーマンスの向上を図るスポーツ理学療法の必要性とその重要性について学習する。	◎	○										
170	専門科目群II	理学療法学セミナーI	1	必修	○	○	○	模擬臨床場面を設定し、実践的な事例教育の中から、チーム医療における理学療法の独自性と専門性を考察させる。さらに、理学療法に不可欠な治療技術、家族指導を含めた環境に対するアプローチなどについても検討を重ね、臨床応用を念頭に置いた教育を展開する。また、理学療法場面で起こり得る事故を想定し、いかに事故を避けるか、また安全管理を行うかを理解する。	◎	◎	○	○			○					
171	専門科目群II	理学療法学セミナーII	1	必修	○	○	○	模擬臨床場面を設定し、実践的な事例教育の中から、チーム医療における理学療法の独自性と専門性を考察させる。さらに本科目では、理学療法士が扱う情報の重要性を理解し、その管理方法や漏洩防止、コンプライアンスや医療広告ガイドラインなどに就いて学び、理学療法の実践と法整備との関わりについて理解する。	◎	◎	○	○			○					
172	専門科目群II	理学療法技術演習(発達・高次脳機能)	1	選択		○	○	発達過程に生じる障害や、高次脳機能障害など、広く神経系疾患に関する理学療法治療法について、専門的に学ぶ。特に最新知見を収集し、各障害に応じた適切な理学療法を選択・実施できる知識・技術を身につける。	○	◎				○						
173	専門科目群II	理学療法技術演習(徒手技術)	1	選択		○	○	徒手技術の基本的な考え方・生理学的理論・運動学的理論・臨床への応用を学習する。特に運動器疾患に対する整形徒手療法や固有受容性神経筋促進法など現在、我が国で行われている様々な徒手技術について紹介する。	○	◎				○						
174	専門科目群II	理学療法技術演習(呼吸・循環・代謝)	1	選択		○	○	呼吸器障害、循環器障害、代謝障害と中心に、最新の知見を紹介するとともに、各代表疾患に対する理学療法の実践を学ぶ。また、各領域の専門的な治療や多職種連携など実践的な学びを目的とする。	○	◎				○						
175	専門科目群II	理学療法技術演習(先進医療機器)	1	選択		○	○	発達著しいリハビリテーション工学の知識を基に、最新の医療機器を紹介するとともに、リハビリテーションロボットや新たな評価機器の応用方法、またそれらの情報収集方法を学び、臨床における最新知見の収集方法を理解する。	○	◎				○						
176	専門科目群II	理学療法技術演習(スポーツ)	1	選択		○	○	スポーツ分野における理学療法士の関わりを理解するとともに、各競技特性に応じた評価方法や介入方法を学ぶ。さらにスポーツ現場での理学療法士の取り組みを紹介し、実践的な学びを提供する。	○	◎				○						
177	専門科目群II	理学療法技術演習(トレーニング)	1	選択		○	○	トレーニングの目的はパフォーマンスを向上させることであり、トレーニングはスポーツやリハビリテーション分野において筋力、体力、スピードなどを増強させる運動を行うことである。本科目はトレーニングに精通する教員により授業を行う。												
178	専門科目群II	地域理学療法学	2	必修	○			近年、在宅医療が充実し、障害をもちながらも在宅生活を営む障害者が増加している。地域理学療法は単に医療機関以外での理学療法ではなく地域理論や異なる技術を包含している。この視点から地域理学療法の必要性について論じる。また、国際支援や災害時、健康増進や介護予防など、多岐にわたる近年の地域理学療法のあり方について教授する。	◎	○			◎							
179	専門科目群II	地域理学療法演習	1	必修	○	○	○	地域理学療法の知識を基盤として、福祉施設および福祉職種の理解、チームの組み方、病院とは異なる理学療法の目標と指導方法の違いを学ぶ。また演習を通して生活活動の自立やQOLの向上を想定した目標設定、理学療法の進め方、さらに介護予防としての理学療法の実際を知る。	○	◎			◎							
180	専門科目群III	理学療法学総合演習A	1	必修	○	○	○	基礎医学系に関する知識の統合を図るため、講義とグループ演習のハイブリッド形式にて知識と理解を深める。特にこの科目では解剖学・生理学・運動学を基盤とし、基礎的な疾患や障害を論理的に理解できるように指導する。教員の専門性を生かし、多方面からの視点での統合解釈ができるよう集団指導を行う。	◎	○				○						
181	専門科目群III	理学療法学総合演習B	2	必修	○	○	○	基礎医学系及び臨床医学系の知識の統合を図り、疾患と障害の原因・本質・特徴などを講義、グループ演習の中で整理する。特にこの科目では運動器系の疾患と、それに起因する様々な障害について学び、各問題点に対する適切な治療法やリハビリテーションアプローチを論理的に導き出せるように指導する。教員の専門性を生かし、多方面からの視点での統合解釈ができるよう集団指導を行う。	◎	○				○						
182	専門科目群III	臨床実習I(見学)	1	必修	○			早期の臨床経験として、実際に理学療法士が働く現場を見学する。特に本科目では、他者とのコミュニケーションを学ぶ場として、共感的態度を身につける。また、職場における理学療法士の役割と責任を知り、チーム医療や理学療法プロセスの実際を理解する。	○	◎	○	◎	○	○	○					
183	専門科目群III	臨床実習II(検査・測定)	3	必修	○			評価実習の一つとして行う。見学実習で学んだ臨床体験を発展させるとともに、学内での学びを基盤とした知識・技術を統合して、臨床実習指導者の指導のもとに実際の対象者に理学療法評価に必要なリスク管理や検査・測定を経験する。	○	◎	○	◎	○	○	○					
184	専門科目群III	臨床実習III(評価)	4	必修	○			検査・測定実習で得た経験と、学内で積み重ねた専門的な知識や技術を基にして、実際の現場において臨床実習指導者の指導のもと、理学療法評価のプロセスを学ぶ。実際に検査・測定を行うだけでなく、チームの一員として臨床に関わる。	○	◎	○	◎	○	○	○					
185	専門科目群III	臨床実習IV(総合)	10	必修	○			臨床実習指導者の指導のもとに、これまでに積み重ねた知識・技術をもってチームの一員として理学療法の一連の過程（リスク管理、理学療法評価、理学療法治療）を経験する。理学療法実施においては、指導者の見学・協働参加・監視を基本とする。	○	◎	○	◎	○	○	○					
186	専門科目群III	地域実習	2	必修	○			総合臨床実習の一部として実施する。本科目では、これまでに学んだすべての知識・技術を、地域理学療法場面に応用するために必要な経験の場となる。地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解する。また、臨床実習指導者の指導のもとに、チームの一員としての役割を知る。	○	◎	○	◎	◎	○	○					